

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043 (223) 3005
発行日 毎月 1 日
令和元年 1 1 月号

企業等の農業参入に向けた農地情報の公開について (公益社団法人千葉県園芸協会HPの紹介)

公益社団法人千葉県園芸協会 農地部

担い手が不足する地域において、企業等の農業参入を含めた受け手の確保が必要となることから、千葉県及び(公社)千葉県園芸協会(農地中間管理機構)は市町村、土地改良区等と連携し、農地情報の収集を行うとともに、受け手となる企業等へ(公社)千葉県園芸協会HPにより情報提供を行っています。

1 農地情報提供の目的について

近年、農家の高齢化や担い手の減少に伴い、耕作されない農地が増加しており、担い手のいない集落も増えています。これからの千葉県農業を維持発展させるためには、担い手農家を育成するとともに、他産業からの就農希望者や企業など多様な担い手を確保することが重要な課題となっています。

千葉県では、平成 29 年 12 月に策定した「千葉県農林水産業振興計画」において、「次代の農林水産業を支える多彩な経営者の育成」のなかで、企業の農業参入を位置付け、支援を行うこととしています。

企業が農業へ参入する場合、農地の有効利用のみならず、千葉県の長を生かした市場流通や直接販売、宅配、観光農園等、企業の経営ノウハウを生かした様々な経営展開が期待されています。

そのため千葉県では、企業等が参入する農地の選定の一助となるよう、「千葉県農地情報取扱基準」(平成 30 年 3 月 19 日制定)に基づき、市町村から農地情報を収集し、(公社)千葉県園芸協会(千葉県農地中間管理機構)のHP上で公開しています。[【URL】http://www.chiba-engei.or.jp/mgtmechinfoforcompany.html](http://www.chiba-engei.or.jp/mgtmechinfoforcompany.html)



HP へは QR コードからもアクセスできます

2 農地を借りる流れ

企業に貸すことのできる県内の農地情報について、地区ごとに掲載しています。その農地情報を確認し、詳細や農地の借受を希望する場合は、下記までお問い合わせください。

公益社団法人千葉県園芸協会 農地部
TEL 043-223-3011
千葉県農林水産部農地・農村振興課 農地集積推進室
TEL 043-223-2848

どのような形態で農業に参入するのか、どのような品目を生産するのか、生産した農産物はどのように販売するのかなどについて、農業経営実施計画を作成・提出していただき、内容確認後、市町村・農業委員会へ照会させていただきます。(計画書の様式、記入例、「千葉県版企業の農業参入ハンドブック」はHPを参照してください。)

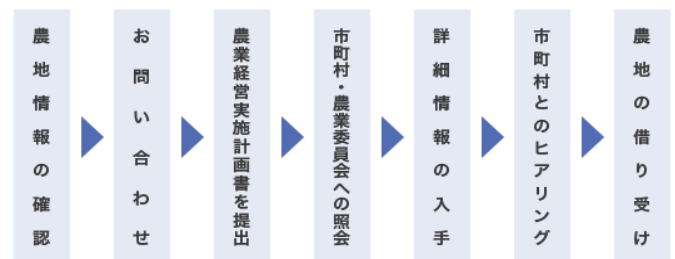
照会后、農地を貸し出す方とのマッチングが可能な場合に企業へ市町村の詳細情報を提供、企業と市町村のヒヤリングを経て、農地の貸し付けとなります。

3 千葉県における企業参入の推進体制

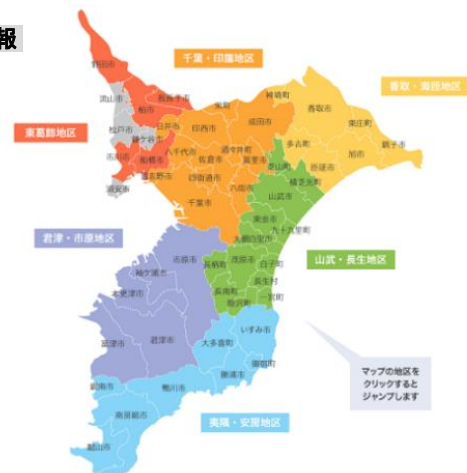
千葉県では、農業参入に意欲のある企業に対し、県担い手支援課を総合窓口として、随時相談を受け付けているほか、県農地・農村振興課(農地、耕作放棄地対策に関すること)、(一社)千葉県農業会議(農業法人、農地法に関すること)、(公社)千葉県園芸協会(農地中間管理事業、HPに関すること)などと連携して対応しています。また、参入後も、県内 10 か所の農業事務所が栽培技術等の相談に対応しています。

企業の皆様が、様々な事業により培った経営ノウハウや経験を生かして、地域に根ざした農業の担い手として参入・定着できるよう農地情報を御活用いただければ幸いです。

農地を借りる流れ



農地情報



流通情報



令和元年産ナシの販売経過

全国農業協同組合連合会千葉県本部
園芸部 園芸販売課 関口 健

本県は、ナシの栽培面積 (1,450ha)、収穫量 (32,000t)、産出額 (150 億円) いずれも全国 1 位 (2017 年) のナシ産地です。市場や販売店舗で消費宣伝を行い、千葉のナシの消費拡大に取り組んでいます。

1 開花から幸水ナシ出荷まで

今年のナシの開花盛は、各産地 4 月上旬から 4 月中旬となり、前進出荷傾向であった前年より 4 日から 8 日遅かったものの、平年に比べると 3 日から 6 日早いものとなりました。着果状況は平年並みから良好となったものの、日照不足の影響などで果実の肥大は遅れ小玉傾向での生育となりました。幸水ナシの早い産地では、平年並みの 7 月 24 日から出荷開始となり、価格は平年をやや下回る取引となりました。

2 7 月の販売経過

千葉県産幸水ナシの出荷とともに、先行産地の福岡・佐賀からの出荷が 7 月下旬から 8 月上旬にかけてピークを迎えました。また、茨城も出荷開始期となり、各産地の入荷が出揃うものとなりました。他品目では、もも、ぶどう類で曇天・低温が続いた事から生育遅れが生じ、出荷のピークが前年より遅れる状況でした。

3 8 月から 9 月の販売経過と幸水ナシの試食宣伝会及び販売店舗での一斉消費宣伝

8 月 6 日 (火) に大田市場の東京青果 (株) 卸売場において幸水ナシの試食宣伝会を行い、千葉のナシの食味の良さをアピールしました。梅雨明け後の干ばつ気味の状況から幸水ナシの肥大は鈍く小玉傾向の中、出荷のピークが 8 月 9 日前後とほぼ平年並みとなりました。



大田市場での幸水試食宣伝会

昨年は他県産の前倒し出荷による入荷増から厳しい販売となりましたが、本年は安定した価格で盆前まで推移しました。

盆明け以降、幸水ナシは減少し始め、代わりに豊水ナシの出荷が始まり、価格はおおむね平年並みで推移しました。また、主産地が出揃った 9 月 7 日から 9 月 16 日にかけて、旬を迎えた千葉県産豊水・あきづきの PR と消費拡大を図る為に首都圏での一斉消費宣伝を行いました。千葉県果樹園芸組合連合会、(公社) 千葉県園芸協会、千葉県、千葉会 (卸売会社の組織) との共催で県内、東京都、埼玉県、神奈川県 の量販店 20 店舗において、計 25 回の試食宣伝を実施しました。この内 4 店舗で産地からの応援が入り、生産者が味の特徴や選び方を直接伝えることで消費者へ印象に残る PR となりました。9 月に入り、あきづきや新高など晩生品種に移行していきました。



首都圏量販店での一斉消費宣伝
1 日で 3,000 玉を販売する店舗もあり
盛況でした

しかし、9 月 9 日未明に関東地方に上陸した台風 15 号により県内では農業施設、農作物等に甚大な被害が発生し、ナシにおいては各産地において落果等の大きな被害がありました。

ナシ全体の販売としては、出荷前半は小玉傾向ながら安定した販売となり、幸水ナシから豊水ナシへの移行もスムーズにいったものの、終盤は台風 15 号の影響から出荷減の中での販売となりました。

野菜ニュース



いちご I P M 取組について

全国農業協同組合連合会千葉県本部
営農支援部 営農技術普及課 遠藤 正樹

J A 全農ちば (以下本会) では平成 28 年 4 月より、化学農薬では防除困難なハダニ類、アザミウマ類の防除に天敵を導入した年間総合防除プログラムを担い手農家に提案・実践し、生産拡大、所得増大、コスト低減への貢献を目指しています。

1 本会扱いの天敵

「システムミヤコくん」、「システムスワルくん」、「チリカブリ」、「アカメ」の 4 品目です。

増殖資材：バンカーシート
天敵：ミヤコカブリダニ



(3) コスト低減の取組は、いちご実証圃の有効事例 37 件を選抜し、コスト試算 (天敵導入版、化学農薬版) の上、実践モデル (10a 当たり農薬費用▲18% 農薬散布▲2 回) を提案し、先行 JA にて実行中です。担い手農家の方々からは作業が軽減でき余力の時間が持てるようになった等の評価を頂き好評を得ています。作業分散などに役立ち、年間防除管理体系が構築できるものと確信しています。

3 今後について

県関係機関、JA との共同ワークを下に、未普及地域への拡大、天敵導入防除プログラムの精度アップ、県下 JA 指導員の育成を通じ、いちご分野に於ける系統組織の万全たる指導体制の確立を図って参ります。

2 いちご I P M 実践活動について

(1) 県下 13JA を選定し、いちご実証圃 (育苗期、本圃) 40 件のデータをもとに天敵導入総合防除プログラムを整備し、担い手農家への技術提案並びに防除指導の促進を継続中です。

(2) いちご育苗期、本圃栽培講習会の機会を通じ、農家ニーズを把握し防除プログラムの向上を目指しています。

いちご本圃ミヤコバンカーシート設置





ニホンナシにおけるいや地現象軽減のための客土量

千葉県農林総合研究センター
果樹研究室 研究員 吉田 明広

ニホンナシで改植時のいや地現象を軽減するための黒ボク土の客土量を、600L から 125L (縦×横×深さ=50 cm×50 cm×50 cm) まで減らしても 600L と同等の初期生育が得られます。

1 はじめに

ニホンナシは老木化すると生産量が落ちるために、改植は重要な課題です。しかし、改植した幼木はいや地現象により初期生育が不良になり問題になっています。これまでに、植え穴部の土壌 600L を取り除きナシ未植栽の土壌を客土することで、初期生育が改善することが明らかとなっています。しかし、生産現場では客土量を 600L より減らすことが望まれており、どの程度減らすことができるか明らかにするため試験に取り組みました。なお、今回客土に用いた土壌はすべてナシ未植栽の黒ボク土、品種は「幸水」を用いました。

2 125L の客土は 600L の客土と同程度生育する

客土量は 600L 区 (縦×横×深さ=100cm×100cm×60cm)、300L 区 (同 100cm×100cm×30cm)、125L 区 (同 50cm×50cm×50cm)、60L 区 (同 45cm×45cm×30cm)、無客土区の 5 区で比較しました。定植後の樹は 4 本主枝整枝を目標に、腕を作って主枝を直立に育成し、上棚まで到達した主枝から順次棚面に誘引しました。

定植 2、3 年目の総新梢長 (30cm 以上の新梢長の和) を調査したところ、600L 区と比較して 300L 区でやや劣ったものの、125L 区は同等以上でした (表)。300L 区では客土の深さが浅かったことが影響している可能性が考えられます。また主枝長は総新梢長と同様の傾向を示しました。主枝誘引率は

表 客土量別の「幸水」定植 2・3 年目の樹体生育

試験区 (客土量)	総新梢長 (m)		主枝長 (cm)		主枝誘引率 (%)
	2 年目	3 年目	2 年目	3 年目	
600L	7.0	17.2	227	272	90
300L	5.8	14.9	200	258	60
125L	7.2	20.2	241	292	90
60L	5.0	14.3	206	262	80
無客土	1.4	14.3	156	267	45

注 1) 平成 25 年 12 月定植、同 27 年 12 月 2 年目調査、同 28 年 12 月 3 年目調査を実施

2) 主枝長は定植後から各年調査時までに生育した延長枝を含む長さ

3) 客土範囲は本文を参照

定植 3 年目に棚面に誘引された主枝数の割合を示しており、客土した 4 区では 50% 以上でしたが、無客土区では 45% と低くなりました。これは、定植 2 年目までに上棚に達した主枝が少なかったことを示し、側枝の配置が遅れ、樹冠の拡大が遅れる可能性があることを示しています。なお、棚面誘引後は主枝が長いほど新梢数が多くなりましたが、新梢長に差はありませんでした。そのため、樹冠面積を早期に拡大させ早期成園化を図るためには、主枝を早期に伸長させ、主枝誘引率を高めることが重要です。

3 おわりに

樹体生育を異なる客土量で比較したところ、定植 3 年目までは 125L 区で 600L 区と同等の生育を示しました。また、60L 区でも定植 2 年目までは無客土区よりも生育は良く、多くの主枝を棚面に誘引できていることから生育が促進されていました。そのため、改植時の客土は 125L (縦×横×深さ=50cm×50cm×50cm) まで減らしても初期生育の改善が図られ、60L (同 45cm×45cm×30cm) 以上の客土であれば一定の生育促進効果が得られます。

なお、125L 程度の客土及び定植の際は、おおよそ 50cm 四方の段ボール等を 4 枚直列に張り合わせた簡易な枠を用いると、客土範囲を容易に決めることができます (写真)。簡易枠は客土後に容易に取り除くことができ、繰り返し使用できます。

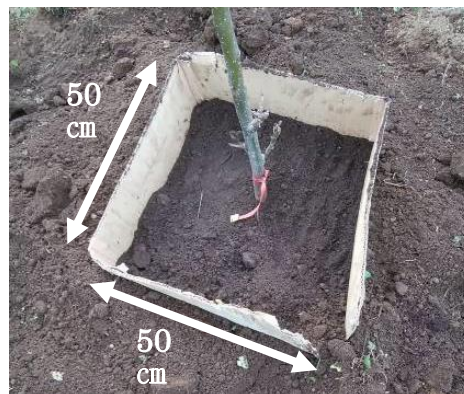


写真 簡易枠を用いた客土方法
(縦×横×深さ=50cm×50cm×50cm の枠を用いた客土法)

頑張る産地



元気な生産者組織「ちばガーベラ研究会」の紹介

海匠農業事務所 改良普及課
普及指導員 古川 航大

ガーベラの切り花生産が盛んな東総地域には、生産者の自主的勉強会組織である「ちばガーベラ研究会」があります。会員相互のほ場巡回、先進地視察、実需者との交流を通じて、会員同士の情報交換、技術研鑽、経営改善に取り組んでいます。

1 ガーベラ生産とちばガーベラ研究会について

本県は多品目の花きが生産されており、その中でもガーベラは東京都中央卸売市場での取扱量が常に上位 3 県に入る主要な品目です。東総地区は県内でも特にガーベラ生産が盛んな地域です。

一方、販売は個人出荷が主流で、生産者同士の情報交換が希薄なことが生産技術向上の妨げとなっていました。そこで、当農業事務所の支援を受け、平成 27 年に「ちばガーベラ研究会」が発足されました。

ちばガーベラ研究会は会員同士の情報交換、技術研鑽を目的に活動しています。現在の会員数は 7 名（旭市 5 名、東庄町 2 名）で、年齢層は 30 代後半から 40 代半ばです。花き経営に精力的な元気のある若手生産者が集まっています。

2 活動紹介

(1) 会員相互のほ場巡回

株を更新する春、高温対策が求められる夏、冬季の準備が必要になる秋にそれぞれほ場巡回を行い、これからの肥培管理について意見交換を行っています。ガーベラ栽培は知見が少ないため、このような意見交換の場で新たな発見をすることが多く、互いの栽培技術向上に役立っています。



ほ場巡回の様子

(2) 県外優良農家視察

初夏と秋に県外の優良ガーベラ農家の視察を行っています。本県とは全く異なる生産状況や経営戦略を学ぶことで、自身の経営改善、栽培技術向上に生かしています。

(3) 実需者等との情報交換

品質が安定し需要が高まる冬季に、会員の主な取引先である都内の中央卸売市場を訪問しています。市場担当者と今期の販売状況、他産地の動向について意見交換をすることで、今後の経営計画を考える機会にしています。また、小売店の視察により、「消費者はどういう花を好むか」などの需要調査をしています。



市場にて他産地産の品質を確認する会員

さらに、種苗会社を招いた新品種検討会、各種勉強会を適宜開催し、需要動向を生産に反映させています。これら活動にあたり、企画、連絡調整、運営は会員同士で役割分担をして自主的に行っています。会員からは、「同じ志を持った仲間と一緒に活動の幅が広がり勉強につながる」との声が多く聞かれます。

3 今後の取組

今後の取組目標について、会長である「さぎやまのはな」の鷺山幸多氏に話を伺いました。

「現在の活動は技術研鑽が主ですが、例えば、出荷等級の統一化、作業の共同化、資材の共同購入など、組織での販売力の強化も考えていきたい」とのことでした。

農業事務所としては、会の活動の活性化を通じて、競合産地に負けない販売力、経営の確立を支援していきたいと考えています。

千葉県立農業大学校 令和2年度一般入学生募集

募集人員 農学科 80名、研究科 20名
(それぞれ推薦入学者を含む。)

試験等日程

	A日程	B日程
試験期日	令和2年1月9日	令和2年2月20日
出願期間	令和元年12月9日 ～12月20日	令和2年1月27日 ～2月7日
合格発表	令和2年1月23日	令和2年3月2日

※受験資格、試験科目等の詳細は、
下記までお問い合わせください。

千葉県立農業大学校 庶務教務課
〒283-0001 東金市家之子1059
電話：0475-52-5121
FAX：0475-54-0630
<http://www.pref.chiba.lg.jp/noudai/>
E-mail noudai01@mz.pref.chiba.lg.jp

「ちばの直売所フェア2019」開催

収穫の秋、だいこんなどの秋冬野菜やサツマイモ、落花生などの県産農林水産物が豊富に出回るこの時期に、県内116店舗の農林水産物直売所が参加するフェアを開催します。毎年好評のスタンプラリーに加え、今年度は「粒すけ」を含む県産米のPRイベントを「道の駅保田小学校」と「道の駅みのりの郷東金」で開催します。



【期間】11月1日(金)～
12月1日(日)

◆スタンプラリー

専用の応募ハガキに、2店舗分の専用スタンプを押印して応募すると、抽選で県産農林水産物や参加直売所の提供賞品、チーバくんグッズなどをプレゼントします。また、当選確率が5倍になる『隠れチーバくん』スタンプもどこかの直売所に設置されています。



専用スタンプ



隠れチーバくんスタンプ

【問合せ先】

- 千葉県農林水産部流通販売課
- 電話：043-223-2963
- ホームページ [ちばの直売所フェア](#) で検索！